

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立高峰中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上アクションプラン」を活用した授業づくりを校内研修や中学校部会を通して職員に共通理解を図り、意欲した授業づくりが実践することができた。家庭学習については、課題の提示の仕方や授業で取り扱うなど工夫改善が必要である。 学力向上については、「唐津の学びスタイル」をもとに、単元による学習計画書の活用と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。以前から取り組んでいることを着実に教師間で協議を重ね、学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行っている。今後、「唐津の学びスタイル」の重点項目を吟味、設定し、授業改善に取り組んでいく。 人権同和教育に関する研究授業や研究協議を通して、職員の道徳教育への意識が高まった。来年度も生徒対象の人権集会を実施して、生徒への人権意識の高揚につなげたい。 実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきながら、今年度も継続していきたい。 部活動休業日の設定に合わせ、定時退勤日を設けるなど、職員のはたらき方改革への意識を高めることはできたが、さらに校務分掌の均等化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>夢を語って夢を追う児童生徒の育成</p> <p>「継続」・「挑戦」・「進化」</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区内の学校連携に根ざした校内研究（キャリア教育・学力向上）の推進 ○分かる授業の構築と確かな学力の育成 ○児童会・生徒会活動の活性化 ○業務改善と働き方改革の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○生徒自身が、自分の考えをまとめ・発表し、質問を受け止め・より深い思考へと発展させるための授業実践	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と肯定的な回答した生徒65%以上	・校内研修等で「唐津の学びスタイル」を共通化し、個別最適な学びを深める。 ・キャリア教育を柱に、スピーチ集会の持ち方を工夫し、充実を図る。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に対して思いやりある態度で接している」と回答した生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを定期的に実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施し、指導法を工夫・改善する。 ・保護者や地域の方と連携した職場体験や産業体験を通して、郷土愛を育む。							道徳教育推進教員(堀田) 人権・同和教育担当(本田)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると肯定的に回答した教員80%以上	・全職員で登下校の指導等を行い、見守る体制を整える。 ・定期的な会議を行い、気になる生徒に関する情報共有を基に、組織的な対応を行い、早期解決につなげる。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。							生徒指導主事(本田)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的に回答した児童生徒70%以上	・学校教育目標に向かって、生徒が主体的に活動する場を設定したり、自主的な活動を学校行事に取り入れたりするなど、承認する場をより多く設定する。 ・発達段階に応じた目指す生徒像の系統表を作成し、体験活動やマナー検定やスピーチ集会を充実させる。							特別活動担当(伊藤) 生徒会担当(伊藤、堀田)
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・運動部活動や地域クラブ活動への参加を促し、運動習慣の育成を図る。 ・昼休みに体育館開放やグラウンド開放を行い、運動に親しむ基盤づくりを行う。 ・給食だより・保健だよりを発行する。 ・保健体育科担当と食育担当との連携を進める。 ・食育資料の情報を発信する。 ・教科等と連携した食に関する指導に取り組む。							① 体育主任(堀田) ③ 保健主事(大西) 栄養教諭(濱口)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○全職員の時間外勤務時間の平均が45時間以内にする。 ○協働的な体制づくりによる組織力の向上。「私は組織に貢献している」という肯定的な割合80%以上	・定時退勤日の設定 ・部活動練習計画表を活用し、計画的な部活動休業日の設定する。 ・校務のデータ化及びICT活用による時間外勤務の適正化を行う。 ・定期的な会議による情報の共有・共通理解の促進と早期課題対応を行う。							教頭(野崎)
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上したと思う」と回答した教員80%以上	・月1回以上の「生活打ち合わせ」等により生徒の情報共有し、対応をする。 ・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願い等を情報共有し対応する。 ・特別支援に関する研修会を1回以上実施する。							特別支援Co(下田)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○キャリア教育	○学校行事と関連づけて、課題発見、調査、まとめ、発表の過程を経て、社会人に必要なスキルを獲得するための教育活動を行う。	○スピーチ集会を行い、生徒全員100%の発表を行わせ、内容とともに、自己の発表の態度も満足度80%以上に上げる。	・生徒の主体性を高めるキャリア・マナー検定を実施し、キャリアスキルの向上を図る。 ・定期的なスピーチ集会を実施する。 ・授業等におけるキャリア教育の資質・能力を高める学習場面の洗い出しと重点化を行う。			
○特別活動の充実	○生徒の主体的活動の活性化	○「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と回答する生徒85%以上	・生徒実行委員会による学校行事の実施 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図る。 ・生徒会本部と連携した専門部活動の充実を図る。							生徒会担当(伊藤、堀田) 特別活動(伊藤)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------